

「 「土砂災害」を知る 」

茨城県 鉾田市立鉾田北中学校 2年 <sup>みやじま</sup>宮島 <sup>あんり</sup>杏梨

最近、テレビなどで土砂災害などのニュースをよく目にします。今年の7月に起きた中国地方や九州北部での土砂災害が、一番記憶に新しいと思います。しかし、その土砂災害というものが一体どういうものなのか、何が原因で起こるものなのか、もし起こったらどんな対処をすれば良いのか、あまり深くは知らない方が多いのではないかと思います。実際に、私も詳しくは知りません。そこで「土砂災害」について調べてみることにしました。

まず、土砂災害の「種類」についてです。一言に土砂災害と言っても災害には、主に3つの種類があるようなのです。

1つ目の種類は「土石流」です。山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などの大量の水と一緒に津波のように襲ってくる現象を土石流といいます。時速20キロから40キロと自動車並のすさまじい勢いで、あっという間に辺りの樹木や家や畑、工作物をつぶして押し流してしまいます。

2つ目の種類は「地すべり」です。山地の斜面をつくる岩石や土壌が、斜面下方へ移動する現象のことで、大雨の時や融雪期に発生しやすく、斜面が一気に移動します。一度に広範囲で発生するため、住宅、道路、鉄道などに大きな被害を及ぼします。

3つ目の種類は「がけ崩れ」です。斜面が突然崩れ落ちる現象で、地震による揺れや大雨、長雨によって地面に水がしみ込んで起きます。突然起き、かつ崩れるスピードが速く、崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れた距離まで届くことがあります。3つの種類の中で一番発生回数が多い現象です。

では、このような災害は何によって起きているのでしょうか。

土砂災害を引き起こす原因には、集中豪雨や台風などによる大雨、地震、天然ダムの決壊などがあります。日本は特に地震が起りやすいので心配になりますよね。心配になった所でふと気があったことがあります。土砂災害を今と昔で比べるとどのような変化があるのでしょうか。調べてみることにしました。

現在と昔を比較してみると、現在に近づくにつれて、土砂災害の発生件数も少しずつ増えているようです。1990年には1000件以下だった土砂災害も2001年には1000件以上を上回っていて、さらに2004年には2500件を上回りました。災害調査が詳細になり詳しいデータが取れるようになったという説もあるようですが、減っていないのは確かだそうです。これには人工林の手入れの問題なども影響しているようですが、一番の問題は「集中豪雨型」の雨が多くなったこと、というのが専門家の見方ようです。九州北部で起こった土砂災害も、記録的な豪雨によって発生したものでした。また、豪雨は土砂災害だけでなく、常総市の鬼怒川のように堤防が決壊するなどの水害も起こるので、そこにも注意が必要です。

では、土砂災害から身を守るにはどうしたらいいのでしょうか。最低限知っておくべき3つのポイントがあるようです。

まず1つ目は、住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」かどうか確認するということです。土砂災害のおそれのある地区はそう記されているようなので確認しておきましょう。

2つ目は、雨が降り出したら土砂災害情報に注意するということです。土砂災害情報は大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時に避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。停電などいざという時のために携帯ラジオを持っていくと良いそうです。

3つ目は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難するということです。お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人は移動時間を考えて早めに避難させることが大事です。

私は、改めて土砂災害はとても危険なものだと思いました。また、どのようなものなのかを知ることで、自分の身を守るためになにをすればいいのか分かることができました。土砂災害だけでなく、地震などの他の災害にも気を付けて、学校の避難訓練などをしっかりと行い、日頃から備えようと改めて思いました。